

(旅) システム 代表内山 様 訪問いただいた皆様方へ

この場を借りて感謝のメッセージを送ります。

1991 年以降、日本軍により被害を受けた「慰安婦」の方々がつぎつぎに、勇気をもって名乗り出て、日本政府による事実認定と謝罪と賠償を求めたことから、すべては始まりました。

性奴隷被害者として名乗りでた勇気ある女性たち。

ハルモニたちは、名乗り出ることによって、声を上げることによって、小さな咲ききれなかった花たちは、時を待つて待つて枯れ果てていきました。

日本軍支配の中でハルモニたちはどのような状態におかれどんな悲惨な生活だったのかを、未だに厚いベールに包もうと、いや あたかも無かった様に、間違っているように方向付けをする日本の姿勢に対して私たちは、ハルモニ達が現代とどのように戦い、どのように生き、今どのように生活しているのか、世界の多くの人たちに伝える記念館を造りました。

今後とも、たくさんの応援をよろしくお願いいたします。

ナヌムの家日本軍「慰安婦」歴史館 所長 安信権

2017 年 11 月 18 日

極寒の中ハルモニ達と一緒に野外広場にて開館の記念行事を迎え、遺品展示館 & 追悼記録館前でのテープカットとなりました。

皆様からの暖かい応援のお陰様で、追悼記録館の野外広場に日本からベンチも設置できるようになりました。

世界各国から訪れる訪問客の皆さんに、日本からの暖かい協力が示される素晴らしい機会となりました。

行事当日、韓国の参加者が「日本からわざわざ参加しに来たのか？」と わざわざ事務所に確認されに来たという話も聞きました。寒い中たくさんの皆様の参加は韓国の参加者たちにも感動だったようです。

ツアーに関しまして、北海道からの参加者の皆さん、たくさんの方々からの応援もいただきました。

高額な応援金もいただきました。

すべて韓国語に記述し事務所に報告、確かに提出致しました。

安信権、ナヌムの家に代わって感謝を述べたいと思います。本当にありがとうございました。

この度の訪問でまだまだ不手際な未熟な部分も多々目に付いた事と思います。今後、少しずつ発展し改善してまいりますのでどうぞ暖かく見守っていただきたいです。

どうぞ、今後も皆様のご協力指導、お越しをお待ちしています。

この度は本当に参加ありがとうございました。

ナヌムの家 ボランティア 工藤千秋